

## 「家庭教育応援隊養成講座」第1回地区研修

東青地区 平成30年6月9日(土)県総合社会教育センター 受講者数13名  
三八地区 平成30年6月22日(金)八戸市総合福祉会館 受講者数28名

今年度新たにスタートした「家庭教育応援隊養成講座」は、家庭教育支援についての講義・演習・実践を通して、各地域で子育てを応援する家庭教育支援者やリーダーの育成、地域全体で家庭教育を支援する体制を整備することを目的に、通年で全7回、東青地区と三八地区の2地区で講座を開催しました。第1回地区研修では両会場ともに特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美 氏を講師にお招きし、「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」について講義いただきました。

### 《第1回東青地区研修》6/9(土)

#### 1 開講式・オリエンテーション

開講式では、和田副所長の挨拶と事業説明の後、オリエンテーションを行いました。

その中のアイスブレイクでは、①バースデーライン ②他己紹介 ③子育てあるあるバスケットを行いました。初めての顔合わせでしたが、一気に打ち解けた雰囲気になりました。



「他己紹介」の様子

#### 2 講義「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」

現代の子育てを取り巻く環境と子育て事情に対応するために、「支援者としての自分の立場を意識すること」や「なぜ家庭教育支援が必要なのか」について御講義いただきました。さらに、家庭教育支援者として長年に渡り携わっている仲間や信念を大切にしている姿勢から、支援者として大切な心構えを学びました。

##### (1) 家庭教育とは

親が子どもに大切にしていること（人と人とのつながりや関わり、生活習慣の基礎、社会的なルール、善悪の判断等）を伝えるために家庭内で行う教育のことである。

##### (2) 現代の子育てを取り巻く環境と子育て事情とは

情報過多やスマホにふりまわされる中で、アウェイ（自分の育った市町村以外）育児は60～70%、親は孤立しがちであり、育児困難が拡大してきている。親は先輩ママやママ友にも迷惑をかけられないと気を遣い、できないと言えない状況である。

##### (3) 今、学ぶことの必要性

支援者は親が学ぶ機会を作り、親も正しい知識を知り、変わっていきける。学ぶことは変わることである。

例) 発達障害について学ぶことも必要となってくる。参考図書：絵本『発達凸凹なボクの世界』

##### (4) 私たちができる家庭教育支援とは

支援者は、相手の話したことを絶対否定せず、最後まで聞いて、受け止めて、相手に自分で気持ちの整理ができるように促すような傾聴する姿勢が必要である。また、聞いたことを言葉で返してあげること、ママたちが自分で考え、自分で行動できるようにお手伝いすること、支援者としてできることとできないことを見極めることも同様に大切となってくる。



講師の沼田久美氏



東青地区研修の様子

### 3 受講者の感想

・傾聴することの大切さを知りました。とにかく教えようと、上から目線になりがち（年齢的に）ですが、相手の話を聞き共感することを改めて教えていただき、講座に参加して良かったです。

・社会情勢については理解しているようでしておらず、今日お話を聞いて子育て支援とつながりました。より理解を深めたいと感じました。また、参加者と話せたことも考え方など参考になるものばかりでした。沼田さんのリーダーとしての心構えについては、今の自分にとってためになるもので、早速明日から実践します。



東青地区研修の様子

## 《第1回三八地区研修》6/22(金)

### 1 開講式・オリエンテーション

開講式では、三上所長の挨拶と事業説明の後、オリエンテーションを行いました。

その中のアイスブレイクでは、①バースデーライン ②他己紹介 を行い、初めての顔合わせでしたが、笑いもあり、良い雰囲気でのスタートとなりました。



「バースデーライン」の様子

### 2 講義「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」

※講義内容は基本的に両地区共通

### 3 受講者の感想

・日頃から子育て支援について研鑽されている方々のお話は、全てがヒントであり、全てが課題であるように感じられました。

・新しい知識や情報を集め、今の子育てを支援していくことの重要性や親世代と祖父母世代との橋渡しをすることの必要性を感じました。

・子育ての辛さを聞いて共感・共有する気持ちや「情報を差し上げても選ぶのはママであること」が支援者として大事な心構えではないかと思いました。

・他己紹介を受けて、既に現場で大活躍されている方が多く、講座への期待が一気に膨らみました。アイスブレイクの段階で、「いいかも！」（今後使える）と思えることばかりでした。普段、“受ける”講義が多いが、今回はワークショップが中心で、しかも、ワークショップを主催（支援）する側のノウハウについても伝授いただき、いつもと違う視点を持つことができました。



三八地区研修の様子